

国語科事例3 評価場面を精選した実践事例

作品中の「家族の絆」を見つけよう

～文章の表現に着目し、作品を読み深める～

第2学年 [知識及び技能] (2)イ [思考力, 判断力, 表現力等] 読むことC(1)イ・エ 言語活動例 C(2)イ

1 単元の目標

(1) 意見と根拠, 具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。

[知識及び技能] (2)イ

(2) 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり, 登場人物の言動の意味などについて考えたりして, 内容を解釈することができる。

[思考力, 判断力, 表現力等] C(1)イ

(3) 観点を明確にして文章を比較するなどし, 文章の構成や論理の展開, 表現の効果について考えることができる。

[思考力, 判断力, 表現力等] C(1)エ

(4) 言葉がもつ価値を認識するとともに, 読書を生活に役立て, 我が国の言語文化を大切にして, 思いや考えを伝え合おうとする。

「学びに向かう力, 人間性等」

2 教材名 向田邦子『字のない葉書』(光村図書 2年)

3 生徒の実態(略)

4 指導の内容と言語活動, 教材のかかわり

ポイント 1

魅力ある言語活動を設定する

(1) 言語活動設定の意図

本単元では, 作品の表現に着目し, 作品に描かれた「家族の絆」を読み深める活動を設定した。本作品には, 「おびたしい」「かさ高」な葉書の束を用意し, 娘が帰ってきたときは「はだして表へ飛び出した」父親の下の妹に対する愛情に加え, 「当時貴重品になっていたキャラコで肌着を縫う」母親の娘への思いや, 苦しくてもすぐに葉書にバツを書かず, 「梅干しの種をしゃぶって」我慢していた下の妹が姉を見た時にあふれ出した安堵感など, 随所に「家族の絆」を感じられる描写がある。初読の段階でも特に父親の愛情を感じられる作品だが, 初読時に気付きにくい細かい描写にも着目させ, 他者との交流活動をとおして, より深い理解へとつなげたい。

【5つの言語意識】

目的意識 根拠を明らかにしながら読みを深めるために

相手意識 クラスの仲間に対して

場面状況意識 表現に着目して作品を読む場面で

方法意識 他者との意見交換を通して

評価意識 根拠を明らかにしながら, 初読には持てなかった読みを自分なりにまとめることができたか

(2) 教材の特徴

本教材「字のないはがき」は, 戦争中の生活を体験した筆者が, 父との思い出を振り返りながら綴る作品となっている。作品は前半部分(P.106, L1~P.107, L12)と後半部分(P.107, L13~P.109, L8)に分かれ, 前半部分は主に筆者の思う父親像が語られ, 後半部分では父と妹との手紙にまつわる具体的なエピソードが語られる。このエピソードの時代については「終戦の年の四月」「学童疎開」「三月十日の東京大空襲」という語句から, 第二次世界大戦の末期(昭和 20(1945)年)であることが分かる。また, 当時の生活の辛さにつ

いては、1年次に扱った「大人になれなかった弟たちに……」で知っているため、生徒にとっても想像しやすいと考えられる。

「罵声やげんこつは日常のこと」であり、「母や子供たちに手を上げる」「暴君」であった父は「反面照れ性」でもあった。「筆まめ」で「一点一画もおろそかにしない」、「威厳と愛情に満ちあふれた非の打ちどころのない」もう一つの父親像は、筆者が親元を離れた際に当てた手紙の中だけに見えた。このように、両極端な二面性をもつ父親像は、物語の前半部分において語られる。日常使われることのない語句もあるため、語句の解説を進めながら前半部分の内容を理解する必要がある。

後半部分は、前半部分の「最も心に残るものをといわれれば(中略)あの葉書ということになろう」という筆者の言葉から時代が遡り、回想という形で語られている。ここから筆者による父親への具体的な父親像(「威厳」や「愛情」、「照れ性」など)が語られることはなくなり、父と妹との行動を中心に語られるようになる。前半部分で理解した父親像をヒントに、家族の一つ一つの行動がどのような心情が表れたものなのかをじっくりと考えることで、より父親(家族)の愛情の深さが読み深められる作品となっている。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使っている。(C(2)イ)	①「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈している。(C(1)イ) ②「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。(C(1)エ)	①登場人物の言動に着目し、他者と意見を共有する中で表現の意図を積極的に捉えようとしている。

*本単元では、[思考力, 判断力, 表現力等]C(1)イを特に重点的に指導し評価する。

ポイント 2



評価場面を精選する

6 指導と評価の計画(C「読むこと」60時間中の5時間)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。 ○「戦時中の生活」「昭和の父親」について持っているイメージを共有する。 ○「字のないはがき」を通読する。 ○印象深い表現をノートに根拠とともにまとめる。	・ワークシートを使うことを通して、仲間と読みを共有しつつ、読みを深めることを知らせる。また、最後に作品に対する考えを再度まとめなおすことも伝える。 ・作品の時代背景をつかみやすくするために、当時の時代背景や、父親像について触れる。 例えば、昭和の父親像が端的に表れている映像を紹介する。「サザエさん」や「巨人の星」など)	
2 3	○作品の前半部分(父親の二面性)について語句とともに理解し、表現から父親の性格を考える。 ○作品の後半部分の中から、以下の観点到てはまる表現を、できる限り多く付箋(青色)に書き、ワークシートに貼り付けていく。 ・人物の心情が読み取れそうな表現 ・印象に残っている表現や気になる表現	・「三日にあげず〜」「罵声やげんこつは〜」「一点一点おろそかにしない」「ふんどし一つで〜」など、父親の行動を中心に次時の活動のモデルとなるように、板書する。 ・表現から読み取れる内容を付箋の近くに書き加えさせる。さらに、複数の表現から同様の内容が読み取れる場合は、表現同士を線で結び付けていき、まとめていくよう指導する。	[知識・技能]① ワークシート ・ここでは、意見と根拠(表現)の結び付きが適切であるかを確認する。

4	<p>○前時に用意したワークシートを仲間と交換し合う。それらを見て、自分が着目していなかった表現があれば赤い付箋に書き込む。また、考えが広まったり深まったりしたことがあれば、ワークシートに直接書き込む。(本時)</p> <p>○初読の感想と比較しながら、ノートに自分の考えを記入する。</p>	<p>・文章から同じ内容を読み取っているが、違う表現に着目していた場合は、その表現を赤い付箋に書き、自分の付箋の近くに貼り付けて線で結ぶ。</p> <p>・数名のワークシートを取り上げて紹介し、考えを共有する。</p>	<p>[思考・判断・表現]① ノート</p> <p>・ここでは、着目した表現を付箋に書き込み、そこから読み取れる内容について自分なりに解釈してワークシートに書き込んでいるかを確認する。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度]① 観察・ノート</p> <p>・ここでは、他者の意見をメモに取ったり、初読の感想を踏まえながら、表現に対する自分の考えをまとめたりしているかを確認する。</p>
5	<p>○筆者がこの作品を通して伝えたいことはどのようなことだったのかを、前時のワークシートや以下の観点を踏まえて考え、ノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ「三十一年」経った今になって書いたのか。 ・どのような思いで過去を振り返っているか。 ・どのような場面を切り取っているか。 	<p>・家族の気遣いや絆が感じられる場面を切り取っていることに気づかせる。</p> <p>「キャラコで肌着を縫って」 「かさ高」 「この日は何も言わなかった」 「はだして表へ飛び出した」</p>	<p>[思考・判断・表現]② 観察・ノート</p> <p>・ここでは、ワークシートの内容を踏まえて、作者の場面の切り取り方(表現)の効果について考え、ノートにまとめているかを確認する。</p>

7 本時の指導(略)

8 単元の評価の実例

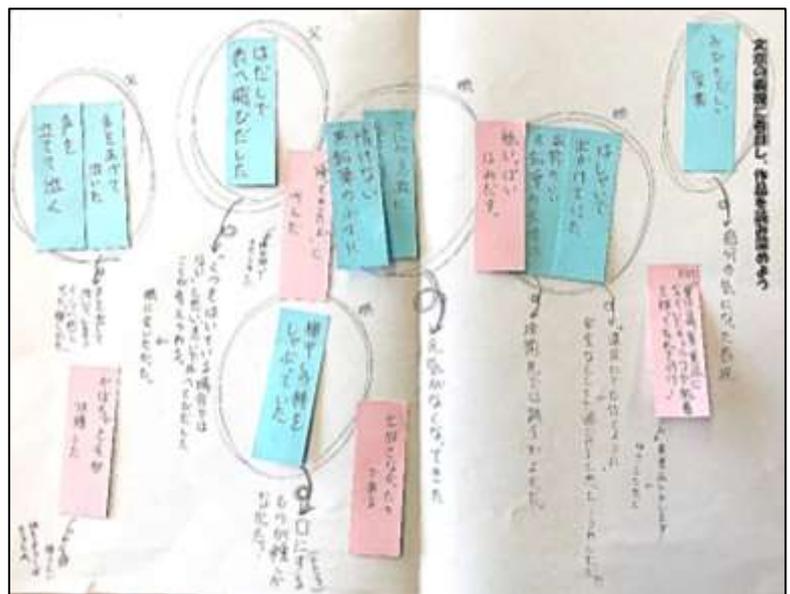
(1) [知識・技能]の評価

[知識・技能]①について、「自分の意見と根拠を適切に結び付けながら、記号や線を用い、ワークシートにまとめる」姿を「おおむね満足できる」状況(B)と捉え、第3時に評価した。

目標を踏まえ、第3時では文章中の表現と登場人物の心情がどのように関わっているかを整理しつつ、自分の意見に対して適切な根拠・理由を挙げながら図式化する活動を行っている。

「努力を要する」状況(C)と判断した生徒については、着目した部分(根拠)と読み取った内容(意見)の間の理由付けがうまくいかず、双方が乖離している場合が考えられる。まずは意見と根拠を挙げさせ、その間を埋める理由を問いかけながら考えさせるなどの指導が必要である。

ポイント 3
生徒の具体的な姿を想定する



生徒のまとめ例

(2) [思考・判断・表現]の評価

[思考・判断・表現]①について、「着目した表現を付箋に書き込み、そこから読み取れる内容について自分なりに解釈してワークシートに書き込んでいる」姿を「おおむね満足できる」状況(B)と捉え、第4時に評価した。

目標を踏まえ、文章の表現に着目し、根拠としながら自分の意見を持ち、それを整理しながら作品に対する解釈を書いているかを確認する。

右の生徒Xの記述では、表現を抜き出し、そこから読み取れる人物の心情を、文脈と結び付けて書くことができていたので「おおむね満足できる」状況(B)とした。

また、生徒Yのように、根拠(本文)と意見を結び付ける理由まで導き出し、明記することができる場合は「十分満足できる」状況(A)とした。

一方で、表現こそ付箋に抜き出せるものの、その表現から読み取れる人物の心情を表せない場合は「努力を要する」状況(C)とした。このような生徒に対しては、まず人物の行動の理由を問いかけ、「なぜこのような行動をしたのか」という疑問から、人物の心情を考えさせた。他の表現も同様に考えさせ、付箋の数と記入する文を増やすよう指導した。

[思考・判断・表現]②について、「自分や仲間のワークシートの内容をもとに、作者の表現を根拠としながら、作品を書いている現在の作者の心情(意図)について自分の考えをまとめている」姿を「おおむね満足できる」状況(B)と捉え、第4時に評価した。

作者の意図を考えることを観点とし、「なぜこの場面を書いたのか」「なぜこのような表現をしたのか」というように、常に複数の文章表現に対して問いかけながら作品を読み深め、文章中の表現を根拠としながら自分の意見を持ち、作品に対する解釈を深めているかを確認した。

(3) [主体的に学習に取り組む態度]の評価

[主体的に学習に取り組む態度]①について、「他者の意見をメモに取ったり、初読の感想を踏まえながら、表現に対する自分の考えをまとめたりしている」姿を「おおむね満足できる」状況(B)と捉え、第4次に評価した。自分では気付かなかった考えに触れ、自分の考えと擦り合わせながら自身の読みを新たに構築していく際に、他者の意見を記録しながら取り入れようとする姿勢を確認した。また、他者の意見や初読の感想を踏まえ、自分の読みの変化をまとめようとする姿勢を確認した。

The image shows two columns of student work. The left column is for Student X, and the right column is for Student Y. Each column has a box at the top with a summary of their notes, and a larger box below with a photograph of their handwritten notes and sticky notes. Student X's notes are in blue ink on a light blue background, and Student Y's notes are in black ink on a white background. Both students have yellow sticky notes with their own interpretations written on them.

生徒Xの記述
→根拠(本文)と意見はあるが、理由まで明記されていない。

生徒Yの記述
→根拠(本文)から意見とどのように考えられる理由を明記している。

姉の姿を見ると泣いたそうなの。ずっと会いたかったし、姉を見て安心した様子。

キャラコで肌着を縫う。
↓本当は貴重な布なのに娘のために使った。(という)ことは娘のためだったら物の価値なんて関係ない。娘のほうが大切だ。

(3) [主体的に学習に取り組む態度]の評価